狛江市市民活動支援センター

こまえくぼ1234

平成31年度事業報告書

社会福祉法人　狛江市社会福祉協議会

目次

１　はじめに　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

２　指定管理業務の実施
2-1　相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（1）相談事業　（2）専門相談
2-2　交流・ネットワーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（1）団体交流事業　（2）ネットワークの支援
（3）団体同士のネットワーク化や協働事業の推進
2-3　情報収集と発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
（1）ホームページ等の活用　（2）情報紙「えくぼ」の発行
（3）広報誌「こまえがお」の発行
2-4　市民活動の拠点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（１）団体によるチャレンジ事業
（２）閲覧しやすい資料コーナーの設置
2-5　その他市民活動の推進に必要な事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（1）市民活動参加の機会の充実　（2）団体向け勉強会
（3）社会資源活用の推進　（4）市民活動の側面的支援
（5）近隣及び都域の市民活動センター等との連携
（6）調査・研究　（7）その他

３　施設管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

４　指定管理業務の支出状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

５　その他指定者が指示する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
5-1　施設の維持管理
（1）清掃業務　（2）修繕　（3）施設点検　（4）その他整備など
5-2　サービスの維持向上
（1）利用者からの要望　（2）利用者アンケートの実施

資料
（1）主な事業の報告書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
（2）施設の活用に関するアンケート回答結果・・・・・・・・・・・・・31
（3）こまえくぼ 1234 の利用に関するアンケート回答結果　・・・・・34

1　はじめに　総括

平成３１年度の重点取組

情報の収集と発信

市民活動の拠点として、地域の資源を市民活動に活かせるように、収集した情報をわかりやすく発信していきます。

・各事業を通して日々の活動から得られた情報を集約し分析することで、相談対応のさらなる充実を図ります。
・市民活動団体が情報を発信しやすい環境を整えます。

支援センターのPR

市民が気軽に集える支援センターとなるように、引き続きPRを進めていきます。

・市民や市民活動団体に支援センターを有効に利用してもらうために、支援センターの活用についてPRをしていきます。
・市民活動に興味関心を持ってもらえるような事業を実施したり、市民参加の機会を増やしたりすることで、市民活動のPRをすることで支援センターのPRにつなげます。

平成 31 年度は、狛江市市民活動支援センター（以下、支援センター）を有効に活用していただくために、上記を重点取組として市民活動を行う個人・団体への活動支援を通して、市民活動の推進を図りました。

○情報の収集と発信

平成 29 年度に市内小学校に向けて実施したアンケートの「多摩川決壊についての話を聞きたい」という意見をもとに体験学習部会・多摩川決壊の語り部の活動が始まりました。昭和 49 年当時の多摩川決壊を知る語り部のメンバーが中心となり様子を伝えるイラスト、多摩川決壊と水害の備えについて語るプログラム内容について検討しました。１月には、地域の高齢者サロンで完成したプログラム内容の一部を披露しました。これから市内小学校の出前授業として実施が出来るように教育関係の

市民活動団体と連携してプログラム内容を再検討していく予定です。

団体向け勉強会や専門相談会の場面では、市民活動団体が自分たちの活動内容や情報を外部に対して発信していくことの重要性について各講師から説明がありました。市民活動団体の活動情報を支援センターのホームページを活用して発信する方法を理解してもらうために、ホームページ部会部員がどのように伝えるか内容を考え、ホームページ勉強会を開催しました。自分たちの活動を発信したいと思っていても「ホームページは難しいからできない」と諦めてしまっている市民活動団体が意外に多くあります。サポートとして市民ボランティアによる投稿サポーターが情報発信の支援体制についても説明しました。

情報発信の大切さについて実践する場面をホームページの活用という視点から市民が考え、市民が活動するホームページ部会が伝える勉強会として実施することができました。

アンケートの意見や勉強会をきっかけに協力者や情報をあつめ、つなげ、活動の形にしていくことは、支援センターとしての重要な機能の成果として形になりつつあります。

○支援センターの PR

市民活動やボランティアの魅力を発信する広報誌として発行している「こまえがお」も 10 号となり、編集をする広報部会部員の視点から多くの市民活動団体や個人の方々の地域での活動を掲載しました。市民の興味がある記事、掲載された方の顔の見える記事を書くための取材から新たな市民の交流や関係性が築かれてきています。紙媒体での情報、ホームページやソーシャルメディアでの情報も市民と市民を結ぶ大切な情報発信の方法となっています。

体験学習部会が中心になり実施した「はじめてのプログラミング体験」「かるたを作って遊ぼう」は、募集受付当日に定員に達するイベントで参加した児童や保護者に支援センターが市民や企業の協力で事業を行っていることを知ってもらう機会となりました。

市民と協力して広報誌や情報紙による情報発信と市民の関心のある事業を行うことで支援センターの PR する方法の形になりつつあります。

開設から４年が経過して市民活動団体や個人の方々とのつながりが支援センターとして広がってきました。1 月～2 月に行った休館日試行（月曜日に変更）では、来館者からは「火曜休館日は定着している」「休館日にあわせて仕事を調整している」などの声をいただき、市民活動団体が活動を行う

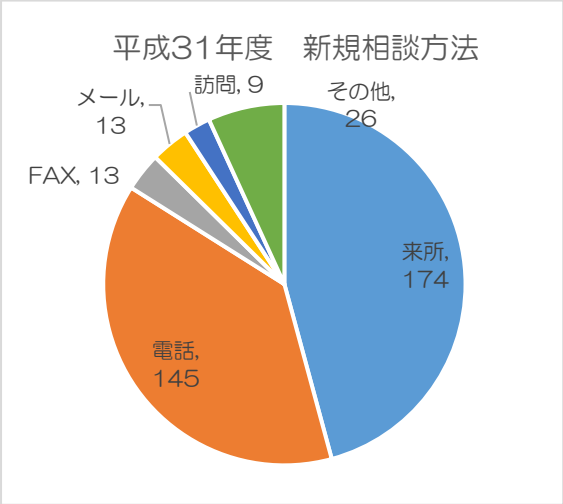
中で支援センターを利用していること、支援センターが団体に知られてきていることを再確認することが出来ました。ただ、残念なことに今年度２月以降は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止として多くのイベントが中止、延期となり市民活動団体の活動する場面が大きく減少してしまいました。

支援センターとしても新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から主催事業や共催事業の中止、臨時休館を決定しました。あわせて、今後の団体の活動に関する相談やイベント中止による保険対応の情報提供も行いました。しかし、多くの市民活動団体が行うイベントが中止となる中、変化する市民活動団体の情報をつかみ、支援センターとしてタイムリーに情報発信することの難しさという新しい課題に気づかされる形になりました。

2　指定管理業務の実施

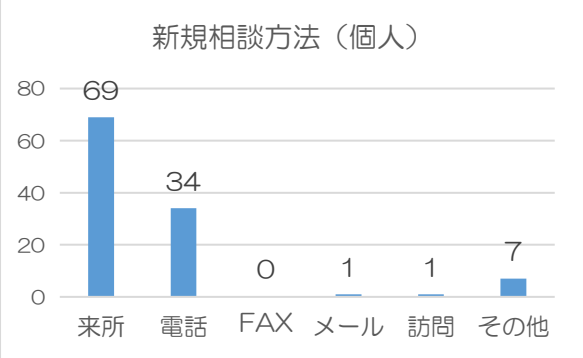
2-1　相談

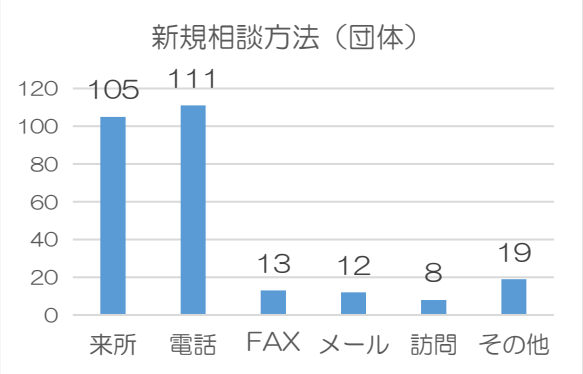
支援センターの中心である相談事業は、相談内容から課題を相談者と共有し、課題解決につながるように相談者に寄り添いながら方向性を見つけ、地域資源につなげていくことを目指して実施しました。



（1）相談事業

平成 31 年度の新規相談件数は、昨年度より 96 件増の 380 件でした。団体からの相談方法は来所と電話がほぼ同数となっています。前年度比では来所、電話とも増加しているという結果でした。電話による相談は、個人よりも団体からの相談が多くなって、活動や困りごとについて相談できる場所として団体から支援センターが認知されていることが伺えます。

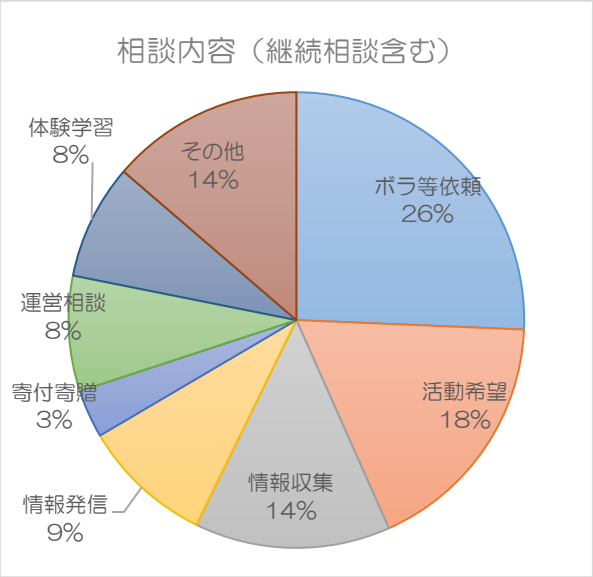


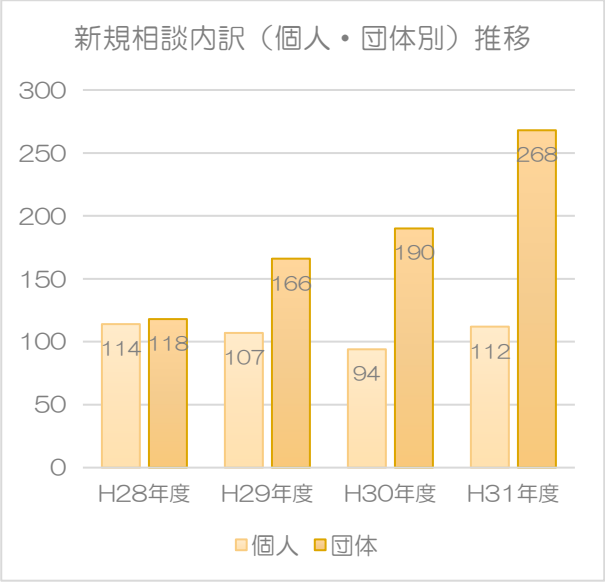


相談内容は、例年と変わらずボランティア等の依頼が最も多く、ボランティアや市民活動への協力を求める声が少なくありません。活動希望に関する

相談、情報収集や情報発信の相談も増えてきており、市民活動の情報拠点としての役割の大きさを感じる結果となりました。

また、今年度は、新規に立ち上がった５団体に支援センター登録に合わせて支援センターのホームページを使った情報の発信や必要な情報の提供、また印刷機、フリースペースなどの設備活用につながるように寄り添いながらの支援を行いました。



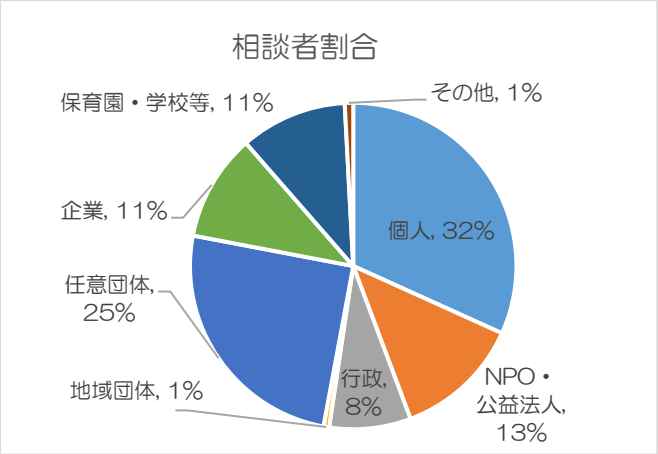


〇主な相談事例

相談内容	対応	結果
（地域包括支援センター） 市内の認知症カフェで絵本の読み聞かせをお願いしたい。	絵本の読み聞かせを行っているグループに打診、地域包括支援センターと内容の詳細などを打ち合わせてもらうこととした。	グループが認知症カフェで読み聞かせを行うことが決まり、活動の機会の提供につながった。
（市役所各課） 実施予定の事業や会議の時に保育ボランティアをしてくれる人を探したい。	それぞれの事業や会議についての詳細について聞き取りをし、具体的な内容を確認、活動内容の問い合わせ先を確認してから募集情報を保育ボランティア登録者に提供した。	保育ボランティア登録者などに連絡、活動につなぐことができた。 また、ボランティアからの事業の詳細な内容に関する問い合わせは依頼部署と直接やりとりをしてもらう形をつくった。

（個人） 狛江市内に空き家を持っているので住宅確保が困難な方やそのような方の支援をしている団体などに活用してもらいたい。	空き家の状態を狛江市担当部署に所有者の許可のもと確認した。市内活動団体に利用希望について確認を行った。	相談者と活用希望団体と市・担当部署との調整をして、現地を確認した。 最終的に希望団体が空き家を修繕して利用することにつながった。
（任意団体） 子どもを対象とした食のイベントでのアレルギー対応とチラシへの記載方法について悩んでいる。	食物アレルギーに関する活動団体に相談内容を伝え、意見をもらった。任意団体として出来ること、出来ないことに関しての活動団体のアドバイスを任意団体に伝えた。	任意団体のメンバーでアドバイスについて意見交換を行い、対応についての意思を確認することが出来た。 団体の持つ専門的な情報を他の団体同士のより良い活動につなげることが出来た。

相談者の割合は、個人からの相談に次いで任意団体、NPO・公益法人といったボランティア・市民活動団体関係が多くを占めています。企業の多くは、有料老人ホームなどの高齢者関係施設です。イベント等でのボランティア活動者に関係する相談が中心でボランティア活動者や市民活動団体とのつながりづくりなどが求められています。支援センターの役割の一つである協働の推進が必要となってきます。



（２）専門相談

市民活動団体の運営や活動に関する悩みや課題を相談できる、専門相談会を実施しました。

各回、活動内容や状況が異なる団体が参加しますが、共通する課題があるため、お互いに共感しながら相談会を進めることが出来ました。異なる分野

や形態で活動している市民活動団体でも同じような悩みや課題があることを知ることで、自分たちの活動のあり方を見直す機会にもなりました。

また、お互いのことを知らなかった地域で活動している市民活動団体同士が知り合い、新たな出会いを創出する場にもなりました。

実施日・テーマ	参加者
第１回： 令和元年７月10日（水） 「お金の悩み相談会～経理・税金～」 相談員： 公認会計士・税理士 内藤 純 氏	１団体 ２名 計 ２名
第２回： 令和元年 11 月 16 日（土） 「個人情報に関する相談会」 相談員： 弁護士 金山 卓晴 氏	５団体 ５名 計 ５名
第３回：令和２年2月27日（木） 「クラウドファンディング～設立や運営・活動のヒント～」 相談員： ファンドレイザー 竹中 裕晃 氏	３団体、個人３名 計 ８名

2-2 交流とネットワーク

（１）団体交流事業

支援センターの事業に関わっていただいている市民に感謝を伝え、交流を深める機会として、「ボランティア感謝祭」を5月 17 日に実施、ボランティア活動者 10 名が参加しました。「個人で活動しているため、他にどのような人がいるのか分からなかった。」「こまえくぼ 1234 で様々な取り組みがあったり、いろんな人が関わっていることを知らなかった。」という声がありました。自分にできる活動を自分のペースで行うこともボランティア活動として大事な要素ですが、一人だけで活動しているわけではないことを認識してもらう機会になりました。

（２）ネットワークの支援

■ごはんと居場所連絡会

平成 29 年度から地域の居場所（食堂）を開催する市民活動団体が情報交換を行うためのネットワーク化の支援を開始し、翌年度に４つの団体による連絡会が発足しました。平成 31 年度には発足して 2 年目になり、各団体で連絡を取り合える体制も確立され、行政の関係部署と連携が取れるようになりました。

■視覚障がい者関連団体連絡会

狛江視覚障害者の会が中心となり、平成 30 年度から支援団体の交流を目的とした連絡会を開催しています。今年度は、６月に７団体と個人４名（合計 12 名）が集まり、狛江市長宛に毎年提出している「視覚障がい者の社会参加等支援に関する要望書」の内容検討や情報共有が出来るようになりました。

（３）団体同士のネットワーク化や協働事業の推進

平成 31 年度は、「参加と協働市民推進フォーラム『第 4 回狛江☆サミット』」を狛江市市民参加と市民協働に関する審議会及び狛江市と共催しました。

支援センター登録団体に開催通知を郵送、開催にあたっての準備協力、会場に掲示する活動団体紹介パネルの作成を登録団体と調整しながら行いました。

『第 4 回狛江☆サミット』は、支援センター共催として登録団体に呼びかけたところ例年参加のなかった市民活動団体からの参加が多くありましたNPO 法人 CR ファクトリー代表 呉 哲煥氏による組織づくりに関する講演でと各市民活動団体が交流する新しい機会になりました。

また、会場に掲示した活動団体紹介のパネルは『第 4 回狛江☆サミット』終了後、支援センターのフリースペースに掲示を行いました。来館された方から掲示されている活動団体に関する問い合わせや参加希望の声をいただきました。

実施日・内容	参加者
令和２年１月１１日（土） 第４回狛江☆サミット～幸せなコミュニティのカタチ～ 「講演　強くあたたかい組織・コミュニティのつくり方」 講師：NPO 法人 CR ファクトリー 　　代表　呉哲煥　氏 「自由交流　（参加団体による PR）」	36 団体 48 名

2-3　情報収集と発信

（１）ホームページ等の活用

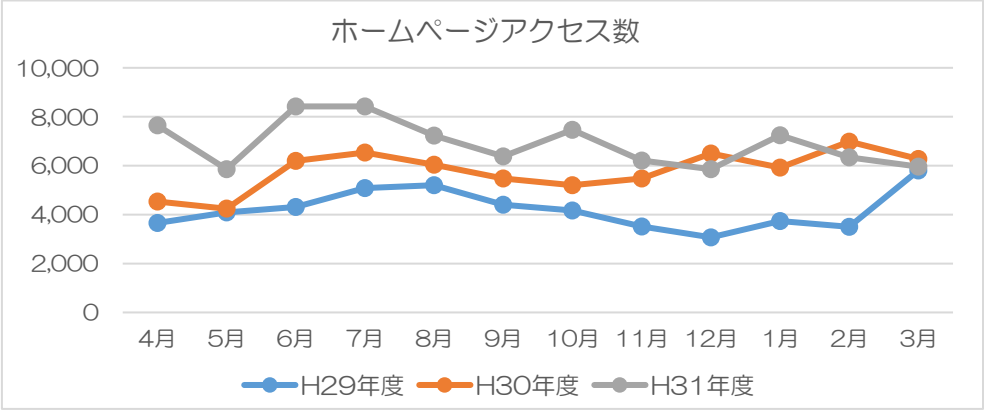
支援センターのホームページでは、登録団体がそれぞれ専用のページを持ち、

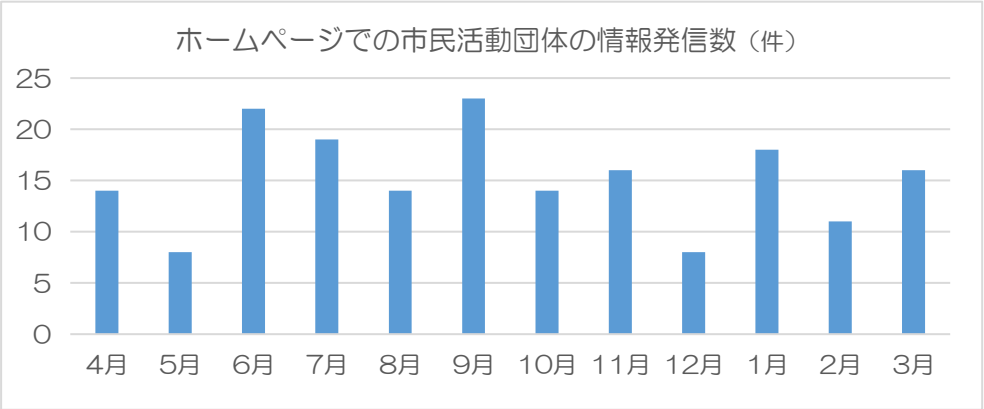
活動の様子やお知らせしたいことなどの情報を発信することができます。支援センターのホームページを登録団体に活用してもらうために、市民のボランティアからなるホームページ部会の協力を得て、ホームページの活用方法や情報発信に関する勉強会を行いました。

■ホームページ勉強会

支援センターのホームページを有効に活用してもらうために、利用団体勉強会を行いました。勉強会終了後、情報発信をする団体や情報発信に関して問い合わせをする団体が増えました。また、投稿サポーターとして登録した市民の方に協力していただき、市民活動団体がホームページを活用する際に支援するという仕組みも整えることができました。今後も、さらに市民活動団体の情報発信がしやすくなるようにしていく予定です。

実施日	参加者	協力
令和元年９月25日	11 団体 14 名	投稿サポーター１名 ホームページ部会員４名
令和２年３月４日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために開催中止	





（２）情報紙「えくぼ」の発行

支援センターからのお知らせや、市民活動に関する情報（活動者募集や助成金情報など）を掲載した情報紙を年間 11 回、各号 3,800 部発行しました。市内の活動情報やボランティア情報、助成金情報を掲載して、市内の施設や店舗等は市内 118 ヶ所に配架、個人宅への配布もしています。

連載中のコラムを楽しみにしているとの声も寄せられ、情報紙を読んでイベント参加の問い合わせもあり、紙媒体での情報発信の重要性も改めて認識することとなりました。印刷、発送準備、配布には、延 20 名６団体にボランティアとして協力していただいています。

（３）広報誌「こまえがお」の発行

市民のボランティアからなる広報部会による広報誌「こまえがお」を発行しました。広報部会では、毎号のテーマや取材先、紙面構成までを協議・検討しています。今年度は計 14 名、各号 6～7 名が編集に携わりました。

単なる活動情報の発信ではなく、活動している個人の思いを丁寧に拾い上げ、広報部員の想いものせて伝えることができ、顔の見える広報誌となっています。

各号 30,000 部を発行、新聞折り込みのほか、情報紙「えくぼ」の配布先への設置、市内小学校への配布をしました。

	特集	掲載団体・個人数	広報部会
第８号 （７月 15 日発行）	まちを元気に！まち活 新たな文化を地域につなげていく	24	会議　５回 打合せ　３回 取材　７回
第９号 （11 月 15 日発行）	コミュニティ放送に求める防災機能。気になるコト、座談会。	21	会議　６回 打合せ　１回 取材　９回

第10号 （3月15日発行）	お囃子の世界	18	会議　　4回 打合せ　1回 取材　　10回

2-4　市民活動の拠点

（1）団体によるチャレンジ事業

支援センター登録団体・個人の優先利用として、フリースペースでのイベント利用と展示利用を支援センターとの共催として行いました。公民館で活動している団体の募集説明会について相談と内容の検討を行い、支援センターで開催しました。主催団体の予想を超える人数が集まり、その後の活動者につながっていきそうです。

団体の活動場所にこだわらず参加者の利便性を考慮しながら事業を行うことでの成果がありました。

・イベント利用：　13回（9団体）
・展示利用　　：　1回　（1団体）

（2）閲覧しやすい資料コーナーの設置

来館者がイベント情報など見やすいようにチラシのサイズを統一して掲示するようにしました。これからも来館者がわかりやすい資料コーナーになるように工夫を重ねていきます。

2-5　その他市民活動の推進に必要な事業

（1）市民活動参加の機会の充実

〇夏体験ボランティア

市民活動への参加の一つとして、ボランティア活動があります。様々な社会的問題への関心を深めたり、地域社会を構成する一市民として積極的に社会づくりに参加することの意義を学ぶ機会となっています。また、活動を通して、多様な価値観や自らの生き方、共に生きていくことの意味を考える機会とすることを目的として実施しました。

参加者全体については、昨年度比約9％の微増でした。中学生の参加も増えていますが、市内の公立校に通う生徒は3割弱であり、7割以上が市外の私立中学に通っている生徒でした。日中に災害が起きた時などは、地元にいる中高生の活躍も期待されます。日頃から地域の活動に関心を持ち、地域住民と接する機会があることで、ともに力を合わせて行動することにつながります。本事

業が、地域の活動を知る、地域の人たちと話すきっかけ作りとなっています。
　また、参加者の感想で「次はこんな活動をしてみたい。」「もっとできたことがあると思う。」という感想を聞くことができています。自分にできることや興味のあることを前向きに考える機会になっています。

・プログラム参加期間：令和元年７月 13 日（土）～９月７日（土）
・プログラム参加者数：61 名　　延参加者数　：111 名
・プログラム数　　：56 プログラム

〇体験学習
　幼稚園・保育園、小学校・中学校からの体験学習の依頼に対して、出前講座や個人・市民活動団体へつなぐなど、体験学習協力を行いました。

■幼稚園・保育園等への支援
　市内の ９ つの保育園から車いす体験や手話体験、昔遊び体験の依頼がありコーディネートをしています。

車いす体験　　８件			
5/9	駄倉保育園　※車いす当事者協力	6/10	三島保育園
5/15	いずみ保育園※車いす当事者協力	6/19	狛江保育園※車いす当事者協力
5/23	駒井保育園	7/18	ちとせ保育園
5/31	藤塚保育園	9/5	虹のひかり保育園※車いす当事者協力

昔遊び体験　１件(協力：多摩川お手玉の会、伝承遊びの会)	
1/9	三島保育園

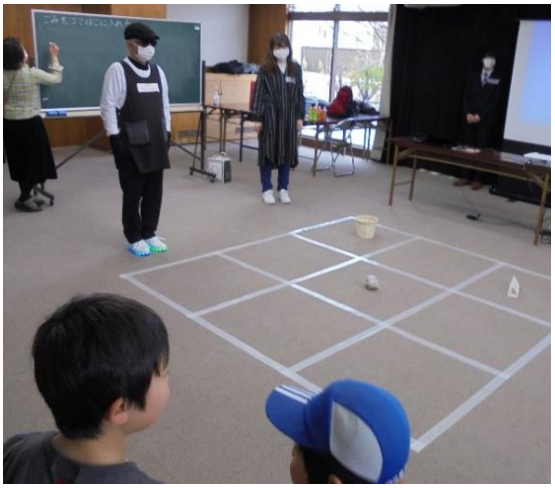
手話体験　７件（協力：手話サークル昼の部）			
6/18	狛江保育園	9/27	ちとせ保育園
6/21	三島保育園	11/11	多摩川保育園
6/25	駄倉保育園	11/15	藤塚保育園
6/27	藤塚保育園		

■小学校・中学校への支援
　小学校は、市内６校のうち５校、中学校は４校のうち１校からの授業協力の依頼がありました。同じテーマでの依頼でも体験を通して、児童・生徒たちに何を一番伝えたいのかを担当の先生と講師が事前に調整して授業内容を変えました。授業協力を行う時には、担当の先生との事前打ち合わせをして、どのような内容にするかをその都度確認していくこと、学校側で準備していただ

くことを明確に伝えることを大切にしています。

実施日	学校名	学年	実施内容		協力者
6/13	緑野小学校	４年	総合的な学習 「だれにとっても住みよい町をめざして」	視覚障がいについてのお話 アイマスク・ガイド体験	視覚障がい者(個人)
6/17	緑野小学校	４年	総合的な学習 「だれにとっても住みよい町をめざして」	車いす利用者のお話し 車いす体験	身体障がい者(個人)
9/26	緑野小学校	４年	総合的な学習 「だれにとっても住みよい町をめざして」	インスタントシニア体験 高齢者についてのお話 弱視体験	こまえ正吉苑 地域包括支援センター
10/15 11/7	緑野小学校	４年	総合的な学習 「だれにとっても住みよい町をめざして」	高齢者施設の訪問と交流	市内有料老人ホーム ３施設
9/13	第五小学校	４年	総合的な学習 「視覚障がいについて」	視覚障がいについてのお話 アイマスク・ガイド体験	視覚障がい者(個人)
9/19	第五小学校	４年	総合的な学習 「肢体不自由について」	車いす利用者のお話し 車いす体験	身体障がい者(個人４名)
10/10	第一小学校	４年	総合的な学習 「バリアフリーってなあに」	視覚障がいについてのお話 アイマスク・ガイド体験	視覚障がい者(個人)
10/30	第一小学校	４年	総合的な学習 「バリアフリーってなあに」	車いす利用者のお話し 車いす体験	身体障がい者(個人) 有料老人ホーム
11/27	和泉小学校	４年	総合的な学習 「だれもがより良くかかわりあう」	視覚障がいについてのお話 点字体験	絵本点訳の会コスモス
1/23	第一中学校	１年	アイマスク・ガイド体験	視覚障がいについてのお話 アイマスク・ガイド体験	視覚障がい者(個人)
2/21	第三小学校	４年	総合的な学習 「共に生きる」	視覚障がいについてのお話 アイマスク・ガイド体験	視覚障がい者(個人) 個人ボランティア

■その他の体験学習



市民５名からなる体験学習部会では、学校などへの体験学習だけでなく、ボランティア・市民活動への参加の機会を広げるための企画や仕組みづくりを検討し、実施をしています。

令和２年度からの小学校でのプログラミング教育の始まりに向けて「はじめてのプログラミング体験教室」を２回実施、申込受付日に満員となるほどの人気でした。参加した子どもたちも楽しみながらプログラミングを勉強することができました。

プログラミング体験の実施にあたっては、事前に体験学習部会部員がプログラミング教育の始まる理由や意図について専門家より学び、体験の中で伝えるべきことについての理解を深めて実施しました。また、プログラミング教室の開催にあたっては、市内企業がCSR活動（地域活動への貢献活動）としてタブレットや通信機器を無償での貸与に協力していただきました。

体験学習部会多摩川決壊の語り部は、語り継ぐ内容や内容にあったイラストを市民が作り上げて、ひとつの形が出来上がりました。出来上がった内容は、社会福祉協議会の実施するサロン野川で実際に語り継ぐ活動を開始しました。

実施日		参加者
令和元年７月27日 14時～16時半	かるたをつくってまなぼう 協力：komae Global Friends、日本語教室、 Wai wai lounge 子どもたちに外国人とふれあい興味、関心をもってもみよう！ 2020東京オリンピック、パラリンピックの競技に興味を持ってみよう！	33名
令和元年８月10日 10時～11時 11時～12時	親子でプログラミング 共催：中央公民館　協力：ドコモショップ狛江店 小学生の親子を対象とした初めてのプログラミング体験	５組×2 20名
令和２年２月15日 10時～12時	はじめてのプログラミング 共催：中央公民館　協力：ドコモショップ狛江店 小学生を対象としたプログラミング体験	10名

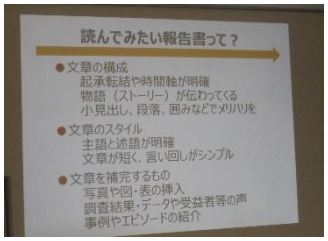
（２）団体向け勉強会

市民活動団体同士が団体内の課題解決の糸口を見つけるだけでなく、団体同士の情報の共有、交換しながら交流を深める機会として勉強会を実施しました。今年度は、助成金をテーマに申請・プレゼンテーション・報告についての３ステップで理解する３回の連続した内容で学習しました。勉強とワークを取り入れたことで参加団体からの高い満足を得ることが出来ました。

第１回「助成金ってなに？」
【日時】令和元年９月28日（土）
【講師】谷口陽香　氏（東京ボランティア・市民活動センター）
【ゲスト】竹本久志氏（狛江水辺の楽校運営協議会）
松田真奈美氏（はぴみゅーずフィギャーノート研究会）
【参加者】９団体 10名

第２回「魅力を伝えるプレゼンテーション」
【日時】令和元年10月19日（土）
【講師】安藤雄太　氏（東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー他）
【参加者】６団体８名

第３回「助成事業の成果の見せ方・伝え方」
【日時】令和元年 11 月 9 日（土）
【講師】後藤麻理子 氏（日本ボランティアコーディネーター協会）
【参加者】９団体 10 名



（３）社会資源活用の推進　【詳細：資料ｐ.31～ｐ.33】

次年度から予定している社会資源活用の仕組みづくりに向けの検討の準備資料として「所有するスペースを市民活動等に活用できるか」などのアンケート調査を実施しました。アンケート実施にあたっては、市内高齢者施設、障がい者施設にあわせて、狛江市商工会に協力をいただき商工会会員にもアンケート配布を行いました。

アンケート項目としては「施設や店舗等の所有するスペースを市民活動に使用できるか」「スペースの活用以外に地域に参加できること」「地域住民や市民活動団体に協力してほしいこと」について調査しました。

【対　象】市内高齢者施設、障がい者施設、商工会会員
【実施期間】令和２年１月～２月
【調査及び回収方法】郵送で依頼、FAX で回答
【アンケート発送数】約 960 か所
【アンケート回収数】33 か所
【アンケート回収率】約 3.5％

■アンケート調査回答概要

場所の提供については、ホールや広い共有スペースを有している有料老人ホーム等から「活用してもらいたい」との回答が得られました。「活用を考えていない」と回答した施設でも駐車場や庭等の屋外スペースを活用できる可能性があることが分かりました。商工会会員とは、１つでも新しいつながりを持つことを目標としてアンケートを送付し、１つの企業から「活用してほしい」との回答を得ることができました。市民活動団体による活用につながるかどうかは不明ですが、新たな社会資源を発見することができたことは、このアンケートの成果であると考えています。「スペースがない」「時間的余裕がない」「個人情報や業務で扱っている情報の保護の観点から解放が難しい」等の理由から場所の提供を考えていないとの回答も多くありましたが「市内イベントへの参加や地域でのボランティア活動等」「福祉講座への協力」「学校等の施設訪問の受け入れ」の協力が可能であるとの回答を得ることができました。

また、回答したほとんどの福祉施設でボランティアを募集していたり、事業への協力を求めていることが分かりました。活動したい市民とのマッチング、

活動できる市民の発掘を検討していく必要もあります。また、高齢福祉施設では「地域の情報交換」を行いたいとの回答があり、地域とのつながりを求めている施設があることも分かりました。

（４）市民活動の側面的支援

①保険の加入受付や相談

ボランティア•市民活動を安心して行うための支援の一つにボランティア保険と行事保険があります。支援センターでは、これらの保険の取扱窓口としての通常対応のほか、自然災害に対応したボランティア保険、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止によるイベント中止に伴う保険対応などボランティア・市民活動を安心して行うための支援を行ないました。

・ボランティア保険 2,045 名　　・行事保険 231 件（8,044 名）

②寄付文化の醸成

寄付寄贈についての相談に対しては、コーディネートをして必要な方へ届くように努めました。寄付をしたい理由として、「部屋を片付けていて出てきた未使用品」「子どもや孫の成長により使用しなくなった」というケースがありました。市内空家の利活用を希望される個人、団体からの相談があり、狛江市の担当部署との橋渡しをするなど地域資源を有効に活用するための支援を進めていく予定です。

また、食品回収に協力しているフードドライブ事業では、支援センター来館者が設置している回収箱を見つけ、次の来館時に食品を持参するなど協力の輪が広がってきています。

③回収活動

使用済み切手や使用済みカード、インクカートリッジなどを回収し、ボランティア市民活動へ還元しています。使用済み切手で得た収入を市民に還元する仕組みとして、回収活動で得た収入で地域の中で交流が生まれる取り組みを次年度から実施できるように検討を行いました。

- 切手カフェ　毎月２回開催（全 22 回）　参加者：延べ 161 名
- 使用済み切手　２２．0Kg（15,400 円相当）
- 使用済みインクカートリッジ　18Kg（市内小学校６校に配布）
- ベルマーク（市内小学校６区に配布）
- 使用済みプリペイドカード　13,355 枚（6,428 円相当）

（５）近隣及び都域の市民活動センター等との連携

① 近隣５市のボランティアセンター・市民活動支援センターとの連携

北多摩南部ブロック社協５市（府中市、調布市、三鷹市、小金井市、狛江市）のボランティア・市民活動支援センターでは、毎年、広域で取り組む必要のあるテーマについて共催事業を毎年実施しています。

日本NPOセンターのSAVE JAPANプロジェクトを活用し、３月に「モット！炊き出しを知ろう！TAKIDASI in 小金井」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催は中止になりました。

この事業は、「こまえアレルギーの会」や各市の市民活動団体にも協力いただく予定で東京ボランティア・市民活動センターとNPO法人AAR Japan（難民を助ける会）も共催に加わり、災害時の炊き出し支援や「食と居場所」について考えることを目的としていました。

（６）調査・研究

次年度の調査研究事業の実施にあたり、運営委員をメンバーとする準備会にて調査目的や事業展開について検討しました。準備会で示された調査目的、事業展開を基に次年度実施を予定している調査・研究事業でのアンケート調査の構成などに取り入れていきます。

参加委員	副委員長１名、運営委員３名
会議実施日	第１回：令和元年８月７日（水） 第２回：令和元年８月19日（月） 第３回：令和元年８月28日（水）
調査目的	地域や行政の課題解決に向けて、協働による市民と行政のまちづくりという設置目的を達成するために、市民活動しやすい（市民参加と市民協働がしやすい）環境をつくり、市民活動支援センターの役割と関わりを検討していくための資料とする。
事業展開	アンケート調査の実施から現状における課題、将来に対する希望等を把握して課題の整理と分析を行う。

（７）その他

①おりがみサロン、おりがみ教室の開催

市民の交流、おりがみボランティアの育成を目的として年８回実施、延べ37名が参加しました。年３回実施したおりがみ教室では、講師から季節のおりがみを習い、参加した方が自身で作品が作れるようになってきました。

次年度以降は、おりがみを通じて施設や市民活動の場面でのボランティア活動につながる動きを本格的に実施する予定です。

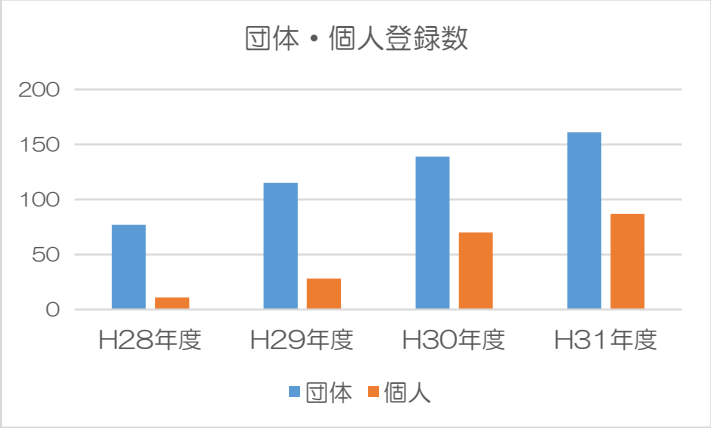
３　施設管理

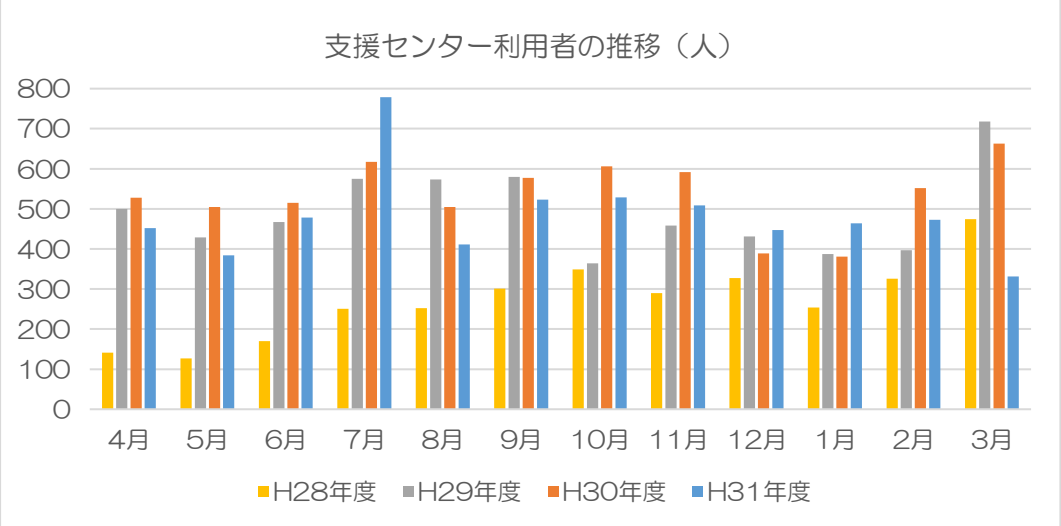
施設利用状況

平成３１年度の利用者数は 5,780 人と昨年度（6,430 人）より約 10%下回る結果となっています。５月に大型連休による休館が続いたこと、年度末の新型コロナウイルス感染症拡大によるイベント等の中止により来館者数が減ったこと、外出自粛にともなう団体の打ち合わせ等が減少したことが影響しています。また、大型台風の接近や新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館が年間４日あり、開館日数が少なくなる異例の状態となりました。

利用状況をみると、約 3 割が打合せ等で最も多く、センターの事業に関係する方が来館することが多くなっています。予約制の貸室ではありませんが、決まった事務所や活動場所がない団体にとっては、ちょっとした打ち合わせ等での利用がしやすい場所として活用されています。その他には、コピー機、印刷機やパソコンなどの設備利用が含まれます。

また、センターの登録は、161 団体、個人 87 名となり、徐々に増えてきています。





４　指定管理の収支状況

指定管理業務の収支状況

（単位：千円）

			平成 31 年度	平成30年度	増減
収入	内訳	狛江市受託金収入	33,749	32,527	1,222
		参加費収入	32	4	28
		雑収入	560	141	419
		法人からの繰入金	0	182	△182
	収入合計		**34,341**	**32,854**	**1,487**
支出	内訳	人件費支出	26,873	26,020	853
		事業費等支出	7,468	6,834	634
	支出合計		**34,341**	**32,854**	**1,487**

５　その他指定者が指示する事項

5-1 施設の維持管理

（1）清掃業務

・日常作業で実施(開所日)

・クリーンこまえに清掃業務委託（毎週金曜日）

（2）修繕

特になし

（3）施設点検（京王設備サービス）

８月　消防設備点検

２月　空調機法令点検、床清掃

（4）その他整備など

10 月　駐輪場スペースの区画改善

1月　フリースペース　デスク配置の変更

1月　フリースペース等に加湿器設置

2月　コロナウイルス感染症拡大防止のため玄関にアルコール消毒液の設置、館内の定時換気、館内のアルコール消毒の実施

5-2 サービスの維持向上

（1）利用者からの要望

休館日に関して市民からの意見を受けて、1～2 月に試行として月曜休館を

実施、市内公共施設が休館となる火曜日に開館をしました。実施にあたり利用者から「こまえくぼは、火曜が休館日」という意見が多く聞かれ、開所から４年間で定着していることがわかりました。

試行にともない公民館での活動団体のフリースペース利用の増加を想定していましたが、団体が予約をして貸し切り利用できる貸室ではないため利用する団体はありませんでした。

（2）利用者アンケートの実施　【詳細：資料ｐ.34～ｐ.42】

市民活動団体等の支援をより一層進めていくために支援センターの利用者及び登録団体を対象として、昨年に引き続きアンケート調査を実施しました。

【対　象】市民活動支援センター（こまえくぼ 1234）利用者及び登録団体
【実施期間】令和２年３月１日～3 月２０日
【調査及び回収方法】メール及び郵送
【アンケート発送数】159 団体
【アンケート回収数】47 団体
【アンケート回収率】30％

■アンケート調査回答概要

・市民活動支援センターの利用について

「どのような目的で（支援センターを）利用しましたか」では、フリースペースの利用（23 団体）、相談（15 団体）、情報発信（11 団体）など場所の利用とあわせて、さまざまな形で利用されています。

また、「どのくらいの頻度で利用していますか」では、月１～３回が 10 団体あり、これまでに数回の利用という回答が 22 団体ありました。「利用することでの変化がありましたか」では急な会議が出来るようになったこと、行政への提案が出来た、情報の収集や発信、他団体との交流などの変化があるとの回答がありました。特に予約なしでフリースペースが利用できることやチラシの掲示、団体同士の交流による活動の広がり、活動のしやすさに繋がっています。

支援センター利用時の職員の対応についての満足度では、挨拶や相談対応に「満足」「やや満足」の意見を９割近くいただいています。しかし、「どちらでもない」「やや不満」の回答が３団体あり、このご意見を真摯に受け止めていく必要があります。「活動する中で現在課題に思うこと」の回答では、会員の高齢化（19 団体）、活動メンバーの固定化（12 団体）の悩みを持っています。「今後、充実してほしい事業や機能」については、協働のコーディネート（11 団体）、団体の会員やボランティアの募集・紹介（10 団体）などの要望がありました。

・施設利用について

「支援センターのフリースペースを利用したことがありますか」には 25 団体が「あり」と回答しています。利用の目的は、会議や打ち合わせ利用（24 件）が最も多く、今後も継続して利用をしていきたい（28 件）という回答がありました。理由としては、予約なしに使えるスペースであること、急な会議で使えること、立地が良い、職員が必要以上に立ち入らず自由に利用できる、困ったときに職員に相談できるという回答がありました。

施設の改善してほしいという意見（12 件）には、フリースペースの一部予約利用や開館時間延長などの意見がありました。

開館時間に関しての回答では、8 団体から「不満」「やや不満」に関しての意見があり、予約制での夜間利用や子育て世代に合わせて開館時間を早めてほしいなどの意見がありました。

備品に関しては、21 団体からは現状の備品で満足いただいていますが、印刷用のコピー用紙の保管をしてほしいといった意見がありました。

自由記載では人材と団体のマッチング機能に関すること、コピー機やプロジェクターなどの備品の利用料の値下げ、利用しやすい支援センターの継続などの意見がありました。

資　料

（１）主な事業の実施報告書
（２）施設の活用に関するアンケート回答結果
（３）こまえくぼ 1234 利用に関するアンケート回答結果

事業名	感謝祭　みなさんのおかげです
目　　的	・センター事業にボランティアで関わっている市民へ感謝を伝える。 ・自分たちが行っている活動の意義を再確認する。（やりがい、モチベーションを上げる） ・他の活動を知り、市民活動支援センターの理解を深める。 ・ボランティア同士が知り合い、新たなつながりや活動の発展が生まれることも期待する。
日　　時	令和元年５月 17 日（金）午後５時～６時 30 分
会　　場	こまえくぼ 1234　フリースペース
参加者	ボランティア活動者 10 名 （運営委員会、専門部会、投稿サポーター、情報紙ボランティア）
周　　知	４月の活動時に案内配布及び声かけ、メール連絡
実施概要	職員自己紹介・市民が関わっている取組みの紹介 交流（名前ビンゴ）
成　　果	自己紹介の中で、「個人で活動しているため、他にどのような人がいるのか分からなかった。」「こまえくぼ 1234 で様々な取り組みがあり、いろんな人が関わっていることを知らなかった。」という話があった。自分にできる活動を自分のペースで行うこともボランティア活動として大事な要素であるが、一人だけで活動しているわけではないことを認識してもらう機会になった。 どのようなきっかけでボランティア活動に関わるようになったかを話した参加者もおり、これまで以上に活動者個人の事を知ることができた。 参加者から「乾杯しようよ」「写真を撮ろうよ」との声が上がったことは良かった。
課　　題	目標人数（30 名）に達しなかった。 切手カフェの活動日と重なり、「帰宅してからもう一度出かけるのは大変」とのご意見や「夕食時なので食事があると出やすい」とのご意見をいただいた。今後の開催日程の参考にする。 ボランティア同士の輪が広がるよう、継続的に実施して参加人数を増やしていく。

事 業 名	市民活動団体向け勉強会　助成金勉強会
目　　的	助成金を活用したい市民活動団体が、各団体の目的や事業内容にあった助成金を獲得できるようになる。助成金を活用して実施した成果を示せるようになる。 ①申請について、②プレゼンテーションについて、③成果の報告についての３ステップで助成金に対する理解を深める。 勉強会を開催することにより、団体が抱える悩みや助成金の利用状況、団体が支援センターに求める支援を把握する機会とする。
日　　時	第１回「助成金ってなに？」 令和元年９月 28 日（土）午後１時 30 分～４時 30 分 第２回「魅力を伝えるプレゼンテーション」 令和元年 10 月 19 日（土）午後１時 30 分～４時 30 分 第３回「助成事業の成果の見せ方・伝え方」 令和元年 11 月９日（土）午後１時 30 分～４時 30 分
会　　場	こまえくぼ 1234　フリースペース
講　　師	第１回　東京ボランティア・市民活動センター　谷口陽香　氏 ゲスト　狛江水辺の楽校運営協議会　竹本久志　氏 はぴみゅーずフィギャーノート研究会　松田真奈美　氏 第２回　市民社会創造ファンド副理事長、東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー　安藤雄太　氏 第３回　日本ボランティアコーディネーター協会　後藤麻理子　氏
参 加 者	第１回　９団体　１０名 第２回　６団体　　８名 第３回　９団体　１０名　　延２８名
実施概要	（第１回） ・講義　助成金とは、助成金の探し方、申請書類の書き方等 ・ゲストの経験談　活用した助成金、書類の作成で苦労したこと等 ・個人ワーク　申請書を書く ・グループワーク　グループ内でお互いの申請書を読み合う （第２回） ・講義　申請書の持つ意味、助成金審査のプレゼンテーションとは等 ・個人ワーク　申請書を書く（第１回の続き） ・グループワーク　グループで一つの事業に絞り、模擬プレゼンを行う （第３回） ・講義　報告で見せること、評価の方法等 ・個人ワーク　自分の活動が対象者や社会・地域にどう役立つかを示す ・グループワーク　グループ内で発表し、他者に伝わるか確認する

成　　果	初回のゲストに助成金の申請や報告で苦労したことを語っていただき、参加団体が共感したり困りごとを共有することができた。ゲストが今挑戦している助成金について話したことで、講師から申請可能な非公開の助成金情報が得られた。講師側も申請の対象になる団体を探していたため、マッチングにつながった。 狛江市公益活動事業補助金以外の助成金を知らない団体も参加しており、様々な種類があることを知り「自分達の活動に合った助成金を探してみます。」と助成金申請のための行動を起こせるようになった。 模擬プレゼンテーションでは審査側の立場も体験することで、審査員が何を聞きたいかを知ることができた。審査員役からより良い事業にするためのアイディアも出され、新しい発想を得ることができた。 助成金の基礎や申請に関する講座等は各地で行われているが、報告に関する講座の実施は少ない。成果を見せるにはどうするかを考え、自分たちの団体が何を目的に活動しているかを再確認することができた。 講義だけでなくワークを取り入れた勉強会形式にすることで、参加団体がお互いの活動を知ることができ、コラボレーションできそうな案が様々に出されるなど活発な意見交換を行うことができた。 参加者アンケートの点数評価では、すべての回で全員が 100 点満点中 80 点を超え、平均 96.9 点と高い満足度を得られた。 支援センターの収穫としては、参加団体が助成金申請で不安に思っていることや助成金で実施したい事業について知ることができた。
課　　題	団体によって理解度に差があることが見えた。助成金を使用して実施したい事業が明確になっている団体とそうでない団体、過去に助成金を申請したことがある団体と初めての申請を考えている団体で差があった。今後はレベルに応じた内容を企画する必要もある。アンケートでは助成金を受けている団体の話を聞きたい、助成金を受けている団体で交流会をしたいとの意見があり、意見を取り入れた企画の開催も検討する。 申請から報告までつながった勉強会として、できるだけすべて参加していただきたいと考えていたが、申し込んだ後に都合が悪くなってしまう参加者が多かった。連続の勉強会は初めての試みであったため、今回の反応を踏まえて、連続する場合の日程を考える材料とする。

事業名	ボランティア・市民活動団体のための専門相談会（第１回） 市民活動団体向け　お金のお悩み相談会　～経理・税金～
目　　的	具体的・専門的な課題解決の機会を提供することを目的とし、今回のテーマは「お金」の中でも、経理や税務に関するお悩み相談会とした。
日　　時	令和元年７月10日（水）午前10時～正午
会　　場	こまえくぼ1234　フリースペース
講　　師	内藤純　氏（内藤公認会計士・税理士事務所　公認会計士・税理士・CFP）
参加者	１団体　２名
実施概要	１　相談者からの事前質問 （１）労働保険料の仕訳 （２）間違いのない管理方法 （３）各種報酬の払い方 （４）おすすめの会計ソフト （５）会計を外部委託するとしたら、どのくらいの費用がかかるか （６）半期か年に１度の会計チェックをしてもらう場合の相場 （７）単式簿記でも管理はできるか ２　相談者の悩み事 会計担当が変わり引き継ぎをしている。期末の未払金（前年度の未払金）について。公的な補助金事業をしているため、行政から説明を求められている。 ３　講師によるお悩み解決 （１）ホワイトボードで、実際の数字を使い、労働保険の仕訳について説明。社会保険の仕訳、税金の仕訳についても確認。 （２）相談者が持参した会計ソフトを操作しながら、間違いのない管理方法を説明。 （３）講師謝礼の処理の説明。 （４）クラウドの会計ソフトについて説明。 （５）外部委託について説明。 （６）その他
成　　果	申し込みが１団体だけだったことで個別相談となった。個別であったため団体の具体的な悩みを解決できた。
課　　題	・会計について悩んでいる団体の声は幾つか聞いていたのだが、日程が合わないなどの理由で、申し込みが１団体しかなかった。専門相談会の日程の設定について、もう少しリサーチが必要だったと考える。 ・今回は、結果的に個別相談になり参加者の満足度は高かったが、当初企画していた専門相談会の内容とは違った。

事業名	ボランティア・市民活動団体のための専門相談会（第２回） 個人情報に関する相談会
目　　的	平成 29 年に個人情報保護法が改正になったのを機に、個人情報を扱う団体（ＮＰＯ法人、市民活動団体や町会自治会）向けに、改めてその意味や取扱いの方法を知ってもらう。
日　　時	令和元年 11 月 16 日（土）午後３時～5 時
会　　場	こまえくぼ 1234　フリースペース
講　　師	金山卓晴　氏　（あさひ法律事務所弁護士）
参加者	５団体　５名
実施概要	１　趣旨説明・講師紹介 ２　講師による個人情報保護法についての概要説明 ３　参加団体の自己紹介および活動紹介 ４　講師と参加者による質疑応答。 個人情報収集時の注意点・取扱い時の注意点 個人情報とプライバシーの関係 パソコンでの個人情報管理についての注意点 チラシ配布のターゲットへのアプローチ方法 イベント開催時の受付方法について　等 ５　アンケート記入
成　　果	・参加者の満足度が高い相談会になった。　少人数だったことで質問への回答にも時間をかけることができたと考えられる。 ・団体間交流ができ、他の団体の活動を知る機会となった。具体的には、Ａ団体の開催日に、Ｂ団体のチラシを配布することになった。
課　　題	・定員 15 名のところ参加者は５名であったが、結果的には、少人数であったために満足度の高い団体相談会になった。今後、専門相談会の定員数について検討する必要がある。

事業名	ボランティア・市民活動団体のための専門相談会（第３回） クラウドファンディング専門相談会
目　　的	市民活動支援を行う施設として、単発的・継続的に活動資金を確保したいと考えている市民活動団体、これから活動しようとしている個人の情報収集に対し、クラウドファンディングに特化した設立や運営・活動に関する課題について相談できる機会を設け、課題解決を支援する。
日　　時	令和２年２月 27 日（木）午後２時～４時
会　　場	こまえくぼ 1234　フリースペース
講　　師	竹中裕晃　氏　（株式会社スカイスケール　代表取締役　地域ファンドレイザー）
参加者	３団体５名、個人３名　　計８名
実施概要	１　趣旨説明・専門相談員紹介 ２　講師によるクラウドファンディングの概要説明 ３　参加者の自己紹介および活動紹介 ４　講師と参加者による質疑応答。 ５　アンケート記入
成　　果	・参加者の満足度が高い専門相談会になった。少人数だったことで質問への回答にも時間をかけることができたと考えられる。 ・クラウドファンディングなどの資金調達を考える際に、活動を振り返り自身の団体を知ること、協力者の洗い出しなど綿密な計画が大事であることが参加者全員に理解できたと考えられる。
課　　題	・定員として５団体 15 名のところ参加者は３団体５名＋個人３名であり、結果的に満足度の高い専門相談会になった。

事業名	第11回　福祉講座「視覚障がい者を知ろう」 （主催：狛江視覚障害者の会　　共催：市民活動支援センター）
目　的	（1）街角などで視覚障がい者を見かけたときに、気軽に声をかけられるようになってもらう。 （2）　視覚障がい者の誘導の基本を覚えてもらう。 （3）　講座終了後に、ボランティア活動に繋げる。
日　時	（1日目）　令和元年11月18日（月）午前10：00～正午 （2日目）　令和元年11月25日（月）午前10：00～正午
会　場	あいとぴあセンター2階　研修室　（2日とも）
参加者	（1日目）一般参加　4名 主催（視覚障害者の会）　3名 協力（狛江市社会福祉協議会）　1名 共催（支援センター）　2名　　合計　10名 （2日目）一般参加　3名 視覚障害者支援ボランティア　5名 主催（視覚障害者の会）　1名 協力（狛江市社会福祉協議会）　1名 共催（支援センター）　2名　　合計　12名
実施概要	（1日目） 1　はじめのあいさつ 福祉講座を始めた理由について 狛江視覚障害者の会について 2　参加者全員の自己紹介（名前、居住地区） 3　視覚障がいについての概要 4　「街中で視覚障がい者を見かけたら、気軽に声をかけよう」声かけのポイントと注意点 5　サークル紹介、便利グッズ紹介 6　アンケート記入 （2日目） 1　1日目の簡単復習「声かけのポイントと注意点」 2　ガイドと誘導の仕方の説明 3　アイマスクと誘導体験 4　視覚障がいの方との交流会 ・1日目の質問への回答 ・参加者全員の簡単自己紹介 ・当事者のエピソード ・ボランティア活動紹介 ・質疑応答

	５　アンケート記入
成　　果	今回の一般参加者の中には、昨年度の福祉講座の受講者が２人いた。前回の参加とは違った視点での参加とのことである。１人の方は、ボーイスカウトの子どもたちに視覚障害の事を知ってもらうための視点で参加したとおっしゃっていた。 年々、福祉講座の参加者数が減少している一方で、福祉講座に複数回参加している方も出てきていることは、継続して福祉講座を開催していることの成果の一つであると言える。 アンケートや参加者の発言からも、講座の目的（１）、（２）は達成できたと考える。今回の一般参加者は全員、既に地域で何らかのボランティア活動をしている方々であったため、講座の目的（３）については、自主的に新たな活動としていただけることが期待できる。
課　　題	１　ここ数年、様々な世代や立場の方々に福祉講座に参加して欲しいという思いから、開催日を、平日の日中・平日の夜間・休日の日中と色々と試してみたが、いずれの時間帯も参加者が少ない。これより、参加者が少ない原因は、時間帯ではないと考えられる。 ２　視覚障がいの方々との交流のコーナーを設けているが、当事者の方々の参加が少ない。

１日目

２日目

施設の活用に関するアンケート　回答結果

Q1.貴施設／貴社が所有するスペースを地域に活用してもらいたいと思いますか。また、その理由を教えてください。

	活用してほしい	活用を考えていない	無回答
高齢福祉施設	5	6	0
障がい福祉施設	4	12	0
商工会会員	1	4	1

［理由］

◆活用してほしい

- 地域のたまりばになればと考えている。
- 有料老人ホームは、どちらかと言えば閉鎖的な印象があると思うので、もっと地域に開放された施設にしていきたい。
- 地域との関わりを大切にしたい。
- 地域貢献、障がい理解への一環等。
- 壁面をギャラリーとして貸し出しているので活用してほしい。
- 地域に知ってもらうため。
- 今現在も子どもたちのあそび場として、部屋を開放していますのでこのまま気軽に来ることができる場所としていきたい。
- 現在、空室となっている。

◆活用を考えていない

- スペースがない。
- 個人情報保護の観点から開放は難しい。
- 入居者の居住スペースのため。
- 使用していない時に希望があれば検討する。
- 事業所の活動自体は地域にオープンで行っているため、一緒に企画・活動するものなら問題ない。
- 都の指定事業所のため、指定の事業以外の利用が不可能。
- 誰にでもオープンというのは難しいが、会社のイメージに合うものであれば活用の可能性はある。

Q2.実際に活用できるスペースはありますか（複数回答可）

	ホールや会議室	ロビー等の共有スペース	駐車場等の屋外スペース	その他	ない	無回答
高齢福祉施設	3	3	3	0	4	0
障がい福祉施設	2	1	2	6	8	1
商工会会員	1	1	1	1	3	0

［記述］

・食堂
・リビング
・壁面と棚
・作業室
・療育室（床張りの部屋）
・車イスでも計れる体重計は連絡をいただけたら使用できます。

Q3.スペースを活用する場合、どのような利用方法が考えられますか（複数回答可）

	利用者と地域住民の交流	地域住民の交流	市民活動団体等のイベント会場	市民活動団体等の通常活動	災害時支援	その他	無回答
高齢福祉施設	7	3	3	1	3	0	3
障がい福祉施設	6	2	1	0	7	2	3
商工会会員		1	1	1	1	2	2

［記述］

・テーブル、椅子が入っているため、イベントの内容によります。
・災害時は皆で協力と思いますが、支援ができるかは難しいかもしれません。
・狛江市とは緊急時の一時避難先として覚書を締結しています。

Q4.施設の活用以外に、地域に参加できることはありますか（複数回答可）

	イベント参加やボランティア活動	福祉講座への協力	スキルを活かした活動	施設訪問／企業訪問の受け入れ	その他	ない	無回答
高齢福祉施設	4	5		5	1	1	2
障がい福祉施設	8	5		4	4	3	1
商工会会員	2		1	0	1	3	0

［記述］

・市内イベント等には、通所事業所等で参加していることが多い。
・施設見学・体験
・イベント参加や福祉講座の協力はやりたい思いはあるが実現できるかは不明。
・その都度ご相談いただけると幸いです。
・ボランティアの受け入れが条件付きですが可能かもしれません。〇〇（＝福祉サービス）に通っている保護者の方は、周りの目が気になって、おおっぴらにしている人はあまりいません。そういう事情を理解してくださる方がいれば、とてもありがたいです。
・商店街イベントの事務局としてすでに参加しています。

Q5.地域住民や市民活動団体に協力してほしいことはありますか（複数回答可）

	ボランティア活動	イベントや事業への協力	地域の情報交換	その他	ない	無回答
高齢福祉施設	８	１	３	０	１	２
障がい福祉施設	７	６	１	２	２	１
商工会会員	１	２	１	０	４	０

［希望するボランティア活動］

・歌会や踊り
・利用者の見守り等
・園芸、書道、芸能、傾聴
・演奏など
・午後のレクリエーション活動への協力
・歌、踊り
・作業補助、行事参加
・プログラムの講師になってもらうなど
・朝の清掃業務
・きょうだい児の預かりボランティア
・子どもと遊んでくれるスタッフ
・イベントのボランティア

■その他意見など

・利用、活用については「有料」を考えております。
・過去の事例やセンターが期待している事など、アンケートに対する具体例があると、イメージがわきやすくなる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

以上

こまえくぼ 1234 の利用に関するアンケート回答結果

アンケート全体				
1	発送数	159		
2	回収数	47		
3	回収率	30%		
設問項目		件数	率（設問）	備考
設問 1-1	団体名と主な活動日時について教えてください	対　象（47 団体）		
①	月曜日	10	21%	
時間	午　　前	8	17%	
時間	午　　後	8	17%	
時間	夜　　間	1	2%	
時間	不　定　期	0	0%	
時間	★ 記載なし	0	0%	
②	火曜日	10	21%	
時間	午　　前	7	15%	
時間	午　　後	6	13%	
時間	夜　　間	2	4%	
時間	不　定　期	1	2%	
時間	★ 記載なし	0	0%	
③	水曜日	8	17%	
時間	午　　前	7	15%	
時間	午　　後	7	15%	
時間	夜　　間	1	2%	
時間	不　定　期	1	2%	
時間	★ 記載なし	0	0%	
④	木曜日	11	23%	
時間	午　　前	6	13%	
時間	午　　後	7	15%	
時間	夜　　間	3	6%	
時間	不　定　期	0	0%	
時間	★ 記載なし	0	0%	
⑤	金曜日	6	13%	
時間	午　　前	5	11%	
時間	午　　後	4	9%	
時間	夜　　間	1	2%	

		不　定　期	0	0%	
		★ 記載なし	0	0%	
	⑥	土曜日	11	23%	
	時間	午　　前	9	19%	
		午　　後	6	13%	
		夜　　間	2	4%	
		不　定　期	1	2%	
		★ 記載なし	0	0%	
	⑦	日曜日	7	15%	
	時間	午　　前	3	6%	
		午　　後	4	9%	
		夜　　間	2	4%	
		不　定　期	1	2%	
		★ 記載なし	1	2%	
	⑧	不定期	17	36%	
	時間	午　　前	5	11%	
		午　　後	7	15%	
		夜　　間	0	0%	
		不　定　期	8	17%	
		★ 記載なし	0	0%	
	★記載なし		1	2%	
設問 2-1		市民活動支援センターを利用したことがありますか。	対　象（47 団体）		
	①	今年度（平成 31 年４月１日以降）から利用をはじめた→２－２へ	3	6%	
	②	昨年度（平成 31 年３月 31 日以前）から利用している→２－３へ	32	68%	
	④	利用していない→５－１へ	12	26%	
	▲	記載無し	0	0%	
設問 2-2		市民活動支援センターについてどのようにして知りましたか。（複数回答）	対　象（3団体）		
	①	市広報	1	33%	
	②	知人からの紹介	2	67%	
	③	チラシやパンフレット	1	33%	
	④	通りがかり	0	0%	
	⑤	情報紙「えくぼ」	0	0%	
	⑥	広報誌「こまえがお」	0	0%	
	⑦	こまえくぼ 1234 のホームページ	0	0%	
	⑧	市役所	0	0%	
	⑨	社会福祉協議会	0	0%	
	⑩	その他（　　）	0	0%	

	▲	記載無し	0	0%	
設問 2-3		どのような目的で利用しましたか。　（利用したことのある項目すべてに○）	対　象（35 団体）		
	①	相談	15	42%	
	②	フリースペースの利用	22	63%	
	③	イベント等への参加	9	25%	
	④	他団体との交流	7	19%	
	⑤	情報発信	11	31%	
	⑥	情報収集	7	19%	
	⑦	その他（具体的に：　　）	13	36%	
		・ボランティア保険などの相談や加入	3		
		・印刷機や紙折り機の利用	5		
		・フードドライブの受付	1		
		・公民館改修工事のため	1		
		・研修会や勉強会の開催	2		
	▲	記載無し	0	0%	
設問 2-4		どのくらいの頻度で利用していますか。	対　象（35 団体）		
	①	週２回以上	1	3%	
	②	週１回程度	1	3%	
	③	月１～３回程度	10	28%	
	④	これまでに数回	21	60%	
	⑤	その他（　　）	1	3%	
		・毎月一回程度	1		
	▲	記載無し	1	3%	
設問 2-5		利用することでどのような変化がありましたか。　（複数回答）	対　象（35 団体）		
	①	活動がしやすくなった（具体的に：　　）	14	40%	
		・ボランティア保険の説明をしてもらう。	1		
		・ミーティングに使用	3		
		・会員の負担なしで集まれる。（金銭負担）	3		
		・予約制ではないので急な時に利用できる。（自由）	2		
		・気軽に集まれる場所である。（利便性）	2		
		・チラシの掲示ができる。	1		
		・気楽に相談に乗っていただける。	1		
		・活動内容のまとまりがよくなった。	1		
	▲	・記載無し	1		
	②	活動に広がりが出た（具体的に：　　）	9	25%	
		・市役所にも良い提案ができました。	1		
		・知名度が高まる。	1		

		・目的を一つにする団体が協働して活動の周知ができるようになる。	1		
		・他団体と知り合える機会が多い。	1		
		・イベントを行ったあと、連絡があった。	1		
		・活動場所に関する情報を得られました。	1		
		・ボランティアを紹介してもらった。	1		
		・公民館以外でもイベントができると実感できた。	1		
		・記載無し	1		
	③	情報発信が活発になった	8	22%	
	④	情報収集がしやすくなった	7	20%	
	⑤	他の団体と交流を持てた	9	26%	
	⑥	特に変わらない	3	8%	
	⑦	その他（　　）	3	8%	
		・ホームページ掲載	1		
		・今後、活動報告や参加者増加のツールとしたい。	1		
		・落ち着いた環境なので、活動練習場として適している。	1		
		・記載無し	0		
	▲	記載無し	2	6%	
設問 2-6		職員の対応について満足度をお聞かせください。	対　象（35 団体）		
◎		あいさつ・言葉づかい・応対時の印象（感じの良さなど）	35	100%	
	①	満足	27	77%	
	②	やや満足	7	20%	
	③	どちらでもない	0	0%	
	④	やや不満	1	3%	
	⑤	不満	0	0%	
	▲	記述無し	0	0%	
◎		相談や要望に対する対応	35	100%	
	①	満足	24	68%	
	②	やや満足	7	20%	
	③	どちらでもない	1	3%	
	④	やや不満	1	3%	
	⑤	不満	0	0%	
	▲	記載無し	2	6%	
設問 2-7		活動する中で現在課題と思うことはありますか。（複数回答可）	対　象（35 団体）		
	①	活動メンバーが固定化している	12	34%	
	②	会員が高齢化している	19	54%	
	③	イベント等をしても人が集まらない	1	3%	
	④	活動する場所がない	3	9%	

	⑤	活動を知ってもらう機会が少ない	5	14%	
	⑥	同じ分野の活動団体と交流・情報交換の機会が少ない	3	9%	
	⑦	異なる分野の活動団体と交流・情報交換の機会が少ない	6	17%	
	⑧	必要な情報（補助金、講師の情報、講座の開催情報等）が手に入らない	1	3%	
	⑨	イベント等のやり方がわからない	0	0%	
	⑩	特になし	9	26%	
	⑪	その他（　　）	5	14%	
		・活動資金が不足している。	1		
		・自分の団体と同様な性格の会があるのか。	1		
		・ボランティアする人が不足している。	1		
		・個人情報保護法との関係で活動が制限されている。	1		
		・必要な人に情報が伝わっているかわからない。	1		
		・競合団体が多いため、実力向上に努力しているが、終着点が見えない。	1		
		・記載無し	0		
	▲	記載無し	1		1.0%
設問 2-8		今後、充実してほしい事業や機能についてお聞かせください。（複数）	対　象（35 団体）		
	①	相談機能	4	11%	
	②	団体の会員やボランティアの募集、紹介	10	29%	
	③	協働のコーディネート（団体同士、団体と個人、団体と行政など）	11	31%	
	④	交流や情報交換の場づくり	5	14%	
	⑤	情報提供	8	23%	
	⑥	講座や研修会の実施	3	8%	
	⑦	特になし	14	40%	
	⑧	その他（　　）	3	8%	
		・情報提供を兼ねた講座、例えば市関連の予算内容とか。	1		
		・団体向けの郵便物の受取、私書箱の役割。	1		
		・特定テーマの関連団体の交流会、意見交換会を開いてほしい。	1		
	▲	記載無し	0	0%	
設問 3-1		市民活動支援センターのフリースペースを利用したことがありますか。	対　象（35 団体）		
	①	ある→３－２へ	24	69%	
	②	ない→３－５へ	8	23%	
	▲	記載無し	1	8%	
設問 3-2		利用の目的は何ですか。（複数）	対　象（25 団体）		
	①	会議や打ち合わせ	20	80%	
	②	資料の閲覧	4	16%	
	③	パソコンの利用	5	20%	
	④	コピー機の利用	7	28%	

	⑤	支援センターとの共催事業（イベントや展示など）	5	20%	
	⑥	その他（　　）	3	12%	
		・行事保険の申込	1		
		・フードドライブの受付	1		
		・相談や情報収集	1		
	▲	記載無し	0		
設問 3-3		３－２で選んだ項目について、今後も利用したいと思いますか。	対　象（25 団体）		
	①	利用したいと思う	23	92%	
	②	利用したいと思わない	0	0%	
	③	どちらでもない	1	4%	
	理由	・市民向けワークショップなど実施したいと思う。	1		
		・予約なしでフリースペースが利用できる。	5		
		・ホームページ掲載でアドバイスしてくれる。	1		
		・立地も良く集まりやすい。	3		
		・フリースペースなので料金がかからない。	3		
		・フリースペースを自由に利用できる。	2		
		・印刷費が安くできる。	1		
		・他の団体と交流することができる。	1		
		・一般の傷害保険よりも保険料が安い。	1		
		・気軽に相談ができる。	4		
		・カラー印刷ができる。	1		
		・フードドライブ（食品寄贈受付）で市民が持ち寄りやすい。	1		
		・イベント会場として利用しやすい。	1		
		・チラシやポスターによる情報収集できる。	1		
		・土日曜日開館している。	1		
		・公民館が利用できるようになったから。	1		
		・記載無し（理由）	5		
	▲	記載無し	1	4%	
設問 3-4		３－２で選んだ項目について、改善してほしいことはありますか。 ある場合には、具体的に教えてください。	対　象（25 団体）		
	①	改善してほしいことはない	12	48%	
	②	改善してほしいことがある	11	44%	
	理由	・開館時間を延長してほしい。	3		
		・もっと専門的な話が聴きたい。	1		
		・若い人が利用しやすい、施設であってほしい。	1		
		・閉館日を火曜日からずらしてほしい。	1		
		・フリースペースは会話がもれてしまうので、防音機能を持たせてほしい。	3		

		・フリースペース利用で、一部予約利用をしてほしい。	2		
		・パソコンの台数が増やしてほしい。	1		
		・お茶やコーヒーをセルフサービスで飲めるようにしてほしい。（有料でも可）	1		
		・まちづくり（ハードも含め）関連の情報提供をしてほしい。	1		
		・資料閲覧について、スペースの拡充や分野ごとの整理してほしい。	1		
		・特になし	1		
		・記載無し（理由）	1		
	▲	記載無し	2	8%	
設問 3-5		開館時間は午前１０時から午後５時までですが、使いやすさはいかがですか。 （選んだ理由もご記入下さい。）	対　象（32 団体）		
	①	満足	9	28%	
	②	やや満足	8	25%	
	③	どちらでもない	7	22%	
	④	やや不満	5	16%	
	⑤	不満	2	6%	
	理由	・開館時間を午後５時以降も延長してほしい。	4		
		・午前 10 時前に開館してほしい。	3		
		・開館時間は、今のままでよい。	3		
		・開館時間を午前９時から午後６時にしてほしい	1		
		・希望する日、時間に使用することができる。	1		
		·記載無し	10		
	▲	記載無し	1	3%	
設問 4-1		市民活動支援センターの貸出備品の利用について教えてください。 （利用したことのある備品すべてに○）	対　象（35 団体）		
利用した備品	①	プロジェクター	7	20%	
	②	ポータブルアンプ・マイク	1	3%	
	③	ＤＶＤプレイヤー	0	0%	
	④	スクリーン	2	6%	
	⑤	印刷機	17	48%	
	⑥	その他（　　）	2	6%	
		・テレビ	1		
		・ホワイトボード	1		
		·記載無し	0		
	▲	記載なし（利用したことはない）	15	43%	
設問 4-2		今後、団体活動において必要とされる備品等はありますか。 ある場合は具体的に教えてください。	対　象（35 団体）		
	①	必要とする備品はない	21	60%	

	②	必要とする備品がある	5	14%	
	②について	・印刷用紙（含、印刷途中品）の保管場所	1		
		・持ち出し可能な備品プロジェクター、スクリーン、ポータブルアンプ	1		
		・カセットテープ・CD	1		
		・プロジェクターの接続端子について、さしこみ口が古いタイプの機器にも対応できるものも用意してほしい。	1		
		・ラミネーター（有料可）	1		
		·記載無し	0		
	▲	記載無し	9	26%	
設問 5-1		利用したことがない理由があれば教えてください。（複数回答可）	対　象（47 団体）		
	①	活動時間と開館時間が合わない	2	4%	
	②	活動日と休館日が重なっている	0	0%	
	③	他の施設（公民館や地域センター等）を利用している	15	31%	
	④	その他（具体的に：　　）	6	12%	
		・個人情報を多く取り扱うため	2		
		・外国支援活動のため。	1		
		・団体登録したばかりのため	1		
		・ＰＣを活用しているため	1		
		・公園の清掃活動のため	1		
	▲	記載無し（利用したことがある。）	25	53%	
設問 5-2		支援センターの利用についてご意見等がありましたらお書き下さい	対　象（47 団体）		
	①	近い施設を利用している。	1		
	②	先日は敏速に対応、ありがとうございました。	1		
	③	今後も運営を続けていただきたいと考えます。	1		
	⑤	情報交換会や講座など貴重な情報発信を続けてほしい。	1		
	⑥	「活動したい人材」と「人材を募集する団体」をマッチングする機会を作ってほしい。	1		
	⑦	いつも丁寧に対応していただき、ありがとうございます。	4		
	⑧	大量の印刷をしたいのですが、センター内駐車場がなく、不便です。	1		
	⑨	各種アンケートや開催通知をネットで頂くが、心苦しく感じている。	1		
	⑩	掲載のホームページの内容を充実させたいと思っています。ご支援よろしくお願いします。	1		
	⑪	フードドライブの受付に協力していただき、感謝しています。	1		
	⑫	フリースペースと印刷機の利用を考えています。	1		
	⑬	コピー代を 10 円から５円にしてほしい。	1		
	⑭	皆さん、明るい笑顔で迎える姿勢が素敵です。これからもかんばって下さい。	1		
	⑮	支援センターの方からは気にかけていただき感謝しております。	1		
	⑯	安価で利用できる印刷機を活用したい。	1		
	⑰	夜、開館してほしい。働いている人たちが多いサークルのためなかなか利用できない。	1		

	⑱	備品の使用料を安してほしい。	1		
	⑲	休館日を公民館とずらしてほしい。	1		
	⑳	「市民活動支援センター」の職員としての専門性は高めてほしい。	1		
	㉑	団体の備品をセンターで保管してほしい。	1		
	㉒	団体交流会を年１回開催してほしい。	1		
	㉓	助成金情報は HP に掲載れているものは印刷し、１冊のファイルで閲覧してほしい。	1		
	㉔	初めて足を運ぶ人にも入りやすい雰囲気づくりを継続していただきたい。	1		
	㉕	グーグルフォームなど WEB 上で回答できるアンケートフォームを活用するのがいい。	1		
	・	限られた活動の利用（私の知る範囲ですが）のみではなく気軽に皆さんの居場所であってもよいのではないでしょうか。	1		
	▲	記載無し	24		